

野見地域でつなぐ400年の伝統の祭り

野見の潮ばかり

高知県 保護 無形民俗文化財

文化庁 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財



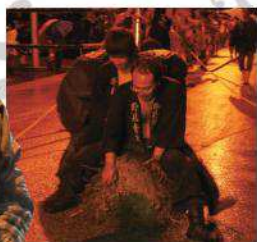
2月5日、南小学校の全校児童35名が潮ばかりに飾る短冊を作る。



南小学校の児童は10年ほど前から地域学習の一環で、短冊の飾り付けの協力をしている。

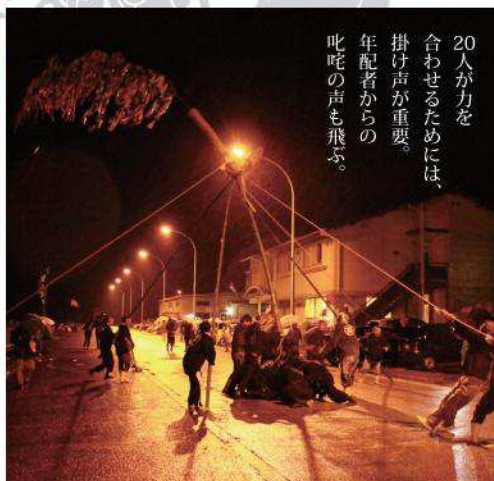


潮ばかりを前に全員で祈願し、いよいよ祭りが始まる。



潮ばかりの根に一人がまたがり、滑らせるように押して進む。

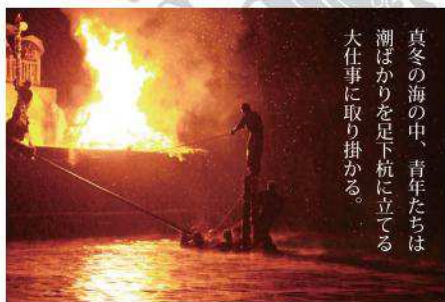
根つきは古老の歌に合わせて行う。潮ばかりでは楽器は使わない。



20人が力を合わせるためには、掛け声が重要。年配者からの叱咤の声も飛ぶ。



17mの潮ばかりは、雨を吸った短冊で重さが増す。根つきでは、青年たちが気合と力を示す。



真冬の海の中、青年たちは潮ばかりを足下杭に立てる大仕事に取り掛かる。



見事に海上に立つた潮ばかり。沖に倒れると豊漁、陸に倒れると豊作と後日に潮ばかりが倒れた方向でその年を占う。



野見青年団の竹林友弘団長が足元杭の上での大役を果たした。「初めての役で緊張しましたが、最後にうまく竹があがってよかったです」と安堵の表情。



重圧から解放され、火を囲み互いの労をねぎらう青年たち。

旧暦1月14日にあたる2月13日の夜に、今年も潮ばかりが執り行われました。潮ばかりは、海神である竜神にその年の大漁と集落の繁栄を祈り行われる行事（山内家の参勤交代の海路安全を祈願したという説もあり）で、400年以上

続くとわれています（祭りで用いる破竹も潮ばかりといえます）。雨が降る寒い中、午後10時30分ごろ、潮ばかりは、コミュニティセンターかがやき東の広場から、足元杭（潮ばかりの納め所）のある野見潮ばかり公園に向かって出発。野見の青年が20人がか

りで、潮ばかりを運びました。辻々では、潮ばかりを垂直に立て、根で地面をドシドシとつく「根つき」をしなが、悪霊払い。足元杭まで進むと、青年9人が真冬の海に飛び込み、ずぶ濡れになりながら、杭に潮ばかりを立て、祭りを終えました。